

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
公衆栄養学概論 Public Nutrition	2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
2単位	講義	必修 (栄養士資格必修)	栄養士養成課程限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
栄養士資格取得に必要な科目			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
栄養士資格取得に必要な科目			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
川田 容子	非常勤講師室	金曜日 2時限目講義前・終了後	授業中に指示します
授業の概要			
公衆栄養学とは何か、その目的・内容について理解する。現代の日本の健康、栄養問題の現状、課題とそれらに対応した栄養政策について理解する。地域等の健康、栄養問題とそれを取り巻く諸問題に関する情報を収集、分析し、総合的に評価判定する能力を身につけることを目的とする。			
授業の目標			
①公衆栄養学の基本事項を説明することができるようにする。 ②健康・栄養問題とそれを取り巻く社会的要因に関する情報等を分析することができるようにする。 ③自ら課題を抽出することができるようにする。 ④実施すべき公衆栄養プログラムを選択することができるようにする。			
授業の方法			
各授業テーマに沿った資料を用いた講義、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。課題を授業内小レポートとして提出させることで理解度を確認する。			
学習の成果（学習成果）			
①公衆栄養学の基本事項（ヘルスプロモーションの概念、関係法令、公衆栄養基本施策、公衆栄養マネジメントの方法）を解説することができる。 ②健康・栄養問題や食に関する社会の実態を正しく理解し、それを取り巻く社会的要因に関する情報等を分析することができる。 ③自分の視点で栄養課題を考え、自ら課題を抽出することができる。 ④栄養士の視点から、必要な公衆栄養プログラムを選択することができる。			
授業のスケジュールと内容			
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価等の説明)	公衆栄養の概念	【講義】
第2回目	公衆栄養活動の歴史		【講義】
第3回目	公衆栄養の現状と問題点を探る	～人口問題を考える～	【講義】 *レポート提出 (第4回目の授業日)
第4回目	公衆栄養の現状と問題点を探る	～健康課題を考える～	(講義) *レポート提出 (第5回目の授業日)
第5回目	公衆栄養の現状と問題点を探る	～栄養課題を考える～	【講義】 *レポート提出 (第6回目の授業日)
第6回目	公衆栄養の現状と問題点を探る	～食環境課題を考える～	【講義】 *レポート提出 (第7回目の授業日)

第7回目	県民健康調査の結果から地域の問題を考える【講義・演習】	*レポート提出 (第8回目の授業日)
第8回目	公衆栄養政策 公衆栄養行政とその役割、関係法令の位置づけ	【講義】
第9回目	栄養疫学 栄養疫学の概要と調査・研究	【講義】
第10回目	食事摂取基準	【講義】
第11回目	健康増進の基本方針と地方計画	【講義】
第12回目	食育の基本方針と地方計画	【講義】
第13回目	公衆栄養マネジメント 公衆栄養の考え方とすすめ方	【講義】
第14回目	定期試験、及び試験内容の解説	【試験・講義】
第15回目	公衆栄養プログラムの実際	【講義】
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	15%	授業に臨む態度で評価する。必要な内容はきちんとノートをとる。わからない点は積極的に質問する。授業中の居眠り、不要な離席、不要なおしゃべり、携帯電話の使用などがある場合は減点となる。
レポート	25%	評価基準は、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0とし、計5回のレポートを課す。Sのレポートは課題を十分に研究し考察されており課題に対して自分の考えをまとめ、明確に記載しているものとする。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	点数による評価とする。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書	ウエルネス 公衆栄養学 第8版	
参考書	日本人の食事摂取基準	
履修上の留意点・ルール		
目的意識・課題意識をもって授業に臨むこと。 遅刻をしない。		